

いんすいしげん 飲水思源

町長 松岡市郎

一言から

16年間の町長経験の中で、ある二人の人物との会話が大きな発想の転換となったことを思い出している。

一人は上川総合振興局のS局長である。「過疎でなくても辺地」と何気なく語った。過疎とは一般的に過疎債のことで、元利償還金の7割を国が補てん措置するものを指しているが、過疎指定でもない町がさらに有利な辺地指定を受けられるはずがない、というのが一般的な受け止め方であったと思う。

早速、法律などで調べると対象となることが判明し、辺地指定を受けた。

結果、市街地以外の道路整備、コミセン、地域の公園のような施設が辺地債の対象となったことで社会資本整備が進み、元利償還金の8割が国の支援措置となっている。つまり、事業費の2割の住民負担で整備が出来る。

もう一人は総務省のH自治行政局長である。奥様には音楽コンサートで大変お世話になっていることもあり、上京時に時々訪問していた。雑

談の中で「国が奨励する事業を展開しても特別交付税の総額は変わらない。子供騙しのようなものだ」と話したら、「特別交付税は自分で算定できる」と言う。

早速、帰って担当職員から総務省へ提出する調査票を受けとり、内容を確認すると局長の指摘する通りである。担当に聞くと、特別交付税の申請は町長まで報告しないのが通例だったと言う。以後、歳入財源に関する情報は全て小職までの報告となり、国等の各種交付金の利活用も飛躍的に進んでいる。

財源は国から入ってくるものを黙って受け取り、その範囲内で業務を行う「まちぼうけ」が定着していたが、職員の「稼ぐ」という大きな意識改革へと繋がっている。

公務員の業務は常に「これで良いのか」を自問自答しながら「より良い」方向に向かって行かなければならない。16年前と財政事情が変わらず、新たなニーズに対応できているのは、この2つの財源確保と職員の士気の向上が大きい。

ひとあじちがう料理店 (一般書)

村田遼太郎/著 東川町社会福祉協議会/刊



要介護状態になっても社会の一員として生きることができる社会を目指し「働く場」づくりを試行するための「ひとあじちがう料理店」が、今年2月3日に「東川楽座笹一」で1日限定オープンしました。そのお店をモチーフにした絵本を東川町出身の村田遼太郎さんが制作。社会とつながることの意味をかみしめる、優しい絵本です。

未来のミライ (DVD)

販売元: パップ



都会の片隅で暮らす甘えん坊の「くんちゃん」の家に、生まれたばかりの妹がやってきます。妹に両親の愛情を奪われ、初めての経験の連続に戸惑うくんちゃんが庭で出会ったのは、自分のことを「お兄ちゃん」呼ぶ不思議な少女「ミライちゃん」。ミライちゃんに導かれ、時をこえた家族の物語へ。それは、小さなお兄ちゃんの大きな冒険の始まりでした。(98分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

せんとびゅあⅡ ほんの森
※GW期間中も開館します。

【貸し出し】
図書、紙芝居、雑誌は一人合計10点まで(15日間)
DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

ことばハンター 国語辞典はこうつくる (児童書)

飯間浩明/著 ポプラ社/刊



「やばい」も「ガチ」も「ハンパない」も、実は全て国語辞典に載っています。こうしたことばはどのように辞書に掲載されるのか? 国語辞典編纂者である飯間浩明先生は、国語辞典に載せるべき新しい日本語を求めて毎日街に繰り出しています。現代日本語を追いかけて奮闘する「ことばハンター」のちょっと変わった日常を描いた、お仕事ノンフィクション。